

平成 23 年 1 月 26 日

各 位

岩手大学農学部獣医学課程  
助教選考委員会  
委員長 安田 準

## 獣医学課程(臨床獣医学)助教候補者の公募について

謹啓

厳寒の候 貴殿におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、本学農学部では獣医学課程(臨床獣医学領域 小動物内科学分野)助教候補者を下記により公募することになりました。

つきましては、貴機関内に適当な候補者がおられましたなら、応募くださるよう周知方ご高配を賜りたくお願い申し上げます。なお、貴機関以外の方でも適当と思われる方がおられましたならば、ご推挙いただければ幸甚に存じます。

敬白

記

### 1. 募集する教員の職名および人数

獣医学課程(臨床獣医学領域 小動物内科学 I 分野)助教 1名

### 2. 臨床獣医学領域の概要および職務の内容

獣医学課程における臨床獣医学領域は、小動物内科学 I (内科診断学)、小動物内科学 II (病態内科学)、小動物外科学 I、小動物外科学 II、獣医臨床繁殖学、生産獣医療学、大動物診断治療学の各分野から成り、小動物内科学 I および II はそれぞれ教授 1 名、助教 1 名で構成されています。今回の公募は小動物内科学 I の助教を充足するためのものです。

当該分野の主たる担当科目は小動物内科学・同実習、臨床検査学および総合臨床実習です。さらに日常、本学動物病院における小動物内科診療を担当しています。

### 3. 選考方針

今回の公募にあたっては、次の諸項を満たす人物が望まれます。

- 1) 博士の学位(取得見込みも含む)と獣医師の資格を有する方。
- 2) 小動物内科学に関する知識と研究能力を備え、学生の教育と研究指導を行える方。
- 3) 本学附属動物病院において積極的に小動物内科診療を行える方。

### 4. 提出書類

- 1) 履歴書 1部(写真貼付、署名、捺印のあるもの)
- 2) 研究業績目録 1部(別紙参照下さい)
- 3) 主要論文別刷 5編以内
- 4) 教育研究および診療に対する抱負 1部(1,000字程度)
- 5) 推薦される場合は推薦状

### 5. 提出期限

平成23年2月18日(金)必着

### 6. 提出先(問い合わせ先)

〒020-8550

盛岡市上田三丁目18-8

岩手大学農学部獣医学課程

助教選考委員会

委員長 安田 準

Tel: 019-621-6235

Fax: 019-621-6235

E-mail: [jyasuda@iwate-u.ac.jp](mailto:jyasuda@iwate-u.ac.jp)

### 7. その他

業績および資格に係わる評価が同等である場合には、男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、女性を優先的に採用します。

以上

## 「研究業績」の作成について（2007. 4）

### 農学部教員人事委員会

研究業績は、A4判の用紙に A. 著書・訳書、B. 学位論文、C. 総説・論説、D. 原著論文 (a) 学術雑誌\*<sup>1</sup>、(b) 紀要\*<sup>2</sup>、(c) プロシーディングス、E. その他\*<sup>3</sup>、F. 報告書・事業報告書等\*<sup>4</sup>、G. 特許・設計等、H. 国際学会発表\*<sup>5</sup>、I. 国内学会発表\*<sup>5</sup>の順に、下記の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C. 原著論文のように繰り上げてください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度（日本語の場合フォントのサイズは10.5～12程度）にしてください。

- \*1：学会誌、国際誌等を年代順に記載する。
- \*2：試験場報告、研究所報告等を含む。
- \*3：商業雑誌、資料等を記載する。
- \*4：調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等を記載する。
- \*5：最近5ヵ年について記載する。（教授選考の場合、I. 国内学会発表は不要）
- \*6：著者名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著者とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。
- \*7：英文で著者名を記載する場合は、下記のようにする。  
1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
- \*8：学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。
- \*9：論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はボールド（太字）とする。
- \*10：Journal は略記する。
- \*11：発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

#### 〈記載例〉

#### 研 究 業 績 (著書・学術論文等)

##### A. 著書・訳書

1. 岩手一郎 (単著) (1990)  
農学について. ○○出版社, 東京, 100p.
2. 岩手一郎 (分担執筆) (1991)  
北上山地における畜産業, 「岩手の農業」(大学太郎, 学部一郎編), △△堂, 盛岡, pp. 10-20.
3. 岩手一郎 (分担翻訳) (1992)  
トウモロコシ, 「アメリカの農業」(A. B. Carter 著, 大学太郎監訳), ◇◇社, 東京, pp. 20-30.
4. Iwate, I. and Morioka, J. (分担執筆) (1993)  
Agriculture in Japan, “Agricultural Sciences” (Eds.: D. E. F. Green and H. I. James), Bio Press, London, pp. 20-30.

##### B. 学位論文

1. 岩手一郎 (1980)  
XYZに関する研究. [◇◇学修士または修士 (◇◇学) ○○大学]
2. 岩手一郎 (1983)  
ABCに関する研究. [◇◇学博士または博士 (◇◇学) ○○大学]

##### C. 総説・論説

1. 岩手一郎 (1994)

岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 No.3 : 1-5.

2. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1995)  
岩手山の植物分布. 岩手植物誌 15 : 215-220.

#### D. 原著論文

##### (a) 学術雑誌

1. 岩手一郎 (1985)  
岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌 5 : 15-20.
2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)  
Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J. Anim. Sci. 20 : 100-105.
3. Iwate, I. (1990)  
Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25 : 15-20.

##### (b) 紀要

1. 岩手一郎 (1985)  
トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報 17 : 30-40.

##### (c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995)  
Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc. 5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp.101-102.

#### E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1990)  
北上山系におけるニホンカモシカの生態調査. 野生動物 No.125 : pp. 35-45.

#### F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)  
イヌワシのPCB汚染. 自然動物調査報告 (△△県), pp.10-11.

#### G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)  
イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567 号

#### H. 国際学会発表 (最近5か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)  
Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

#### I. 国内学会発表 (最近5か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1997)  
岩手の野生動物. 第100回日本野生動物学会講演要旨 : 25-26.